
(4) 観光の推進に関する環境整備

① 情報発信機能の充実

酒田を訪れる観光客の市内回遊性を高めるため、ワンストップ型の観光案内所を、今後予定されている駅前再開発施設等に整備するなど、情報発信機能の強化と街中案内機能の充実などに取り組む。特に湊町酒田の象徴でもある北前船に関しては、バーチャルな映像等も含め北前船の歴史や文化などの発信を強化する。

さらに、酒田の四季の魅力を、インターネットを通じた動画情報として世界に向け発信していく。

② 情報環境整備（Wi-Fi等）

観光庁が平成23年10月に実施した「訪日外国人に対するアンケート調査」によると、旅行中に困ったことの第1位に「無料公衆無線LAN環境の未整備」が上げられている。平成27年6月に観光立国推進閣僚会議にて決定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」においても「外国人旅行者が利用しやすい無料公衆無線LAN環境の整備を促進する」と記載されており、各地で整備が進められている。

酒田市内でもホテルなどでは無料公衆無線LANの環境が整備されているものの、訪日外国人観光者の誘致に向けて更なる無料公衆無線LANの環境の整備を拡充する。

③ お土産品となる名物・名産品の開発

訪日外国人旅行者のみならず日本人にとっても、旅先での名物や名産品の買い物は旅行の楽しみの一つとなっている。酒田市においては、新鮮な魚介類や農産物などを買い求める日本人旅行者は多いものの、これは酒田独自のものとは言えず、また外国人旅行者には不向きである。

旅行者のニーズに応えるには、酒田に来た記念や思い出となる、酒田でしか手に入らない、酒田独自の名物や名産品の開発を進める。

④ 滞在型観光メニューの開発

酒田市の観光の課題でも記したとおり、酒田市を訪れる観光客は日帰りが多く、また日帰り客の平均滞在時間も4時間弱と短い。

魅力的な資源の組み合わせによって酒田市内での滞在時間を拡大したり、さらには宿泊してもらえるような滞在型観光メニューの開発を進める。特にビジネス客を含めた宿泊客の増大を図るため、地酒と食や夜間景観など酒田の夜の魅力づくりを進める。同時に、民泊など新たな宿泊形態のあり方についても検討する。

⑤ 交通ネットワークの整備

酒田を観光で訪れる際の首都圏からのアクセスは、鉄道で酒田駅を利用するか、高速バス、あるいは庄内空港を利用した航空便、自家用車による交通手段が一般的である。

しかし鉄道では、山形新幹線で新庄経由、上越新幹線で新潟経由のいずれも約4時間かかる。飛行機を利用した場合、羽田空港と庄内空港は約1時間であるが、庄内空港から酒田市内までは連絡バスで40分ほどかかる。また高速道路についても首都圏から直結する道はなく、いずれもかなりの時間を要する。

今後、酒田の観光を振興していくためには、交通ネットワークの整備が必要不可欠である。国等に対しては、山形新幹線の庄内延伸や羽田ー庄内空港間の航空機の大型化、日本海沿岸東北自動車道の延伸等を含め、顧客視点に立った交通ネットワークの整備を求めていく。